

# ワールドワイド携帯電話四半期動向

2011年8月4日報告

## 2011年2Q(4-6月)調査結果 目次

1	2011年2Q (2011年4-6月) 結果の要約	3	7.1.	2011年2Q端末販売動向	22
2	7-9月の出荷、販売見通し	4	7.2.	2011年2QのSmart Phone販売動向	25
3	地域別累積加入推移(四半期別)	6	7.3.	Smart Phoneの patents 問題	27
3.1.	中国、ブラジル、ロシア加入推移	9	7.4.	2011年方式別、メーカー別端末販売予測	29
4	方式別加入推移(四半期別)	11	8	Nokiaの2011年2Q動向	31
5	2011年加入者予測	14	9	Samsungの2011年2Q動向	34
5.1.	地域別	14	10	LGの2011年2Q動向	37
5.2.	方式別	15	11	Sony Ericssonの2011年2Q動向	39
6	主要オペレータ加入者数推移	16	12	Motorola Mobilityの2011年2Q動向	41
6.1.	アジア	16	13	Smart Phoneメーカーの2011年2Q動向	44
6.2.	西欧	17	13.1.	Research in Motion	44
6.3.	東欧	18	13.2.	Apple	45
6.4.	北米	19	13.3.	HTC	47
6.5.	中南米	19	14	その他の端末動向	47
6.6.	中東/アフリカ	20	15	日本メーカーの2011年2Q動向	48
6.7.	主要オペレータの世界全体の推定比率	21	16	端末各社の出荷計画	49
7	端末販売動向推移	22	17	製品在庫状況	50

## 2011年2Qの世界の携帯電話市場概況

### 加入者数推移

4-6月期のワールドワイドの新規加入件数は前期を下回った。米国では Verizon、AT&T、SprintNextel の上位3社の内、Verizon が前期を上回ったが、AT&T は前期に対して半減規模の新規加入件数に留まった。

西欧、東欧は新規加入の伸びは完全に止まり、累積加入ベースを減らすオペレータも多くみられた。唯一アフリカが着実に新規加入を伸ばしており、2Q ではタンザニアなどアフリカ内の新興諸国が前期を上回る新規加入を獲得。Smart Phone の普及により、一部のヘビーユーザ(大半が iPhone)にデータ使用量が偏る問題が発生し、オペレータは定額制の廃止に動いている。Verizon はデータプランの定額制を7月から取りやめ、ユーザは US\$10/月 (75 MB)、US\$30/月 (2GB) 、US\$50/月 (5GB) から選択することになる。Wi-Fi 向けは 30 ドル/月で従来通り定額制を維持する。

AT&T は 10 月から定額加入者のサービスに一定の歯止めを掛ける見込みである。現在新規加入者には定額制は採用されていないが、重量制移行前に定額制サービスを受けているユーザはそのままの契約が継続している。AT&T は一定のデータ料に達したユーザに対し、データスループットスピードを落とすとしており、10 月に発売が予想されている iPhone 5 を意識した動きとみられている。規制については Wi-Fi には適用されない。韓国 KT も WiBro 4G network の新規ユーザに対する定額制のサービスを廃止するとした。

### 端末需要

2Q では大手 5 社の内、Samsung を除く 4 社が赤字決算になった。特に Nokia は全社ベースの赤字の四半期は過去にもあったが、端末部門に限れば赤字決算初めての事態になる。Nokia は 2Q で在庫整理に踏み切り事態の打開を図ったが、依然ハイエンドからローエンドに至る製品ラインナップに不安を残している。特に Symbian をどのようにフェードアウトさせるのか Smart Phone での位置づけが読み切れない。尚 8 月に発表した Nokia 500 はブランド名としてサブブランドは使っていない。Nokia は今後上梓するモデルについてすべて 3 桁の番号付けをする計画とみられ、超ローエンドは 100、ハイエンドは 900 に番号付けをし、100 から 900 番台に機種ごとの機能、価格によって振り分けるようである。(以前も 4 桁で同じような差別化を行っている。)

Nokia とは対極的に Apple iPhone は 2Q で好調な業績を達成した。四半期初の 2,000 万台の大台を突破し Smart Phone 市場を牽引した。一方でパテント戦争に挑み、Android 陣営を揺さぶる戦術に出ている。特に注目されるのは 2007 年に申請したマルチタッチの特許が 4 年を費やしパテントの獲得に成功したことである。Apple は今後 Smart Phone では一般的になったマルチタッチについて提訴条件を整えたことになる。競合メーカは他のマルチタッチの特許を取得せざるを得ず、Smart Phone 開発の重しになってきた。

3Q は前期比微増を予想した。3Q では 7、8 月が夏休み期間なので端末需要は一般的に落ち込み、地域により 9 月に新年度入りするため 9 月で端末需要は増える習性がある。各メーカとも iPhone 次期モデルの上梓に対抗、フラグシップモデルを 9 月、遅くとも 10 月に投入する計画で、3Q はクリスマスシーズンを睨んだ前哨戦の四半期になる。